

<b>授業科目</b>  国際看護論	<b>科目概要・形式</b>  1 単位 15 時間(8 コマ) 講義科目	<b>配当年次</b>  博士前期・2 年次 前期開講	<b>オンライン参加</b>  ㊦・不可
<b>科目責任者</b>	久保 宣子		
<b>担当者</b>	久保 宣子、調整中 (非常勤)		
<b>1. 科目のねらい・目標</b>			
<p>&lt;ねらい&gt;</p> <p>グローバルな視点から文化・社会・経済・政治など多様な背景を踏まえ、人々の生活や価値観を理解したうえでの看護のあり方を学ぶ。国際社会における健康課題や保健・医療システムについて、日本との共通点や相違点を通して理解を深めるとともに、発展途上国における医療保健に影響を与えている諸要因にも注目する。また、文化的背景を尊重した看護の実践方法を考察し、国内外の健康課題に対応できる看護専門職としての役割を探求する。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自身の実践・研究テーマに関連する関心領域について、国際機関 (WHO, JICA 等) の公式サイトや論文を活用し、情報を収集・分析できる。</li> <li>2) 多様な文化的背景を持つ人々 (在留外国人等) への看護実践や、国際協力の仕組みについて具体的に説明できる。</li> <li>3) ディスカッションや発表を通じ、グローバルな健康課題に対して多角的な視点から自身の考えを論理的に提示できる。</li> </ol>			
<b>2. 授業計画・内容</b>			
<p>(教員 1)</p> <p>第 1 回：健康に影響する世界の課題          グローバルヘルスの動向と課題。</p> <p>第 2 回：国際看護学の定義および対象          国際看護の概念、歴史的変遷、および日本における役割。</p> <p>第 3 回：文化・多様性と看護理論          文化アセスメントモデル、多様性の理解と尊重。</p> <p>第 4 回：各国の保健医療システムと看護          日本と諸外国 (先進国・途上国) の医療制度比較。</p> <p>第 5 回：日本における在留外国人への看護 (演習)          多文化間コミュニケーション、外国人患者への具体的対応と課題。</p> <p>(教員 2)</p> <p>第 6 回：国際協力の仕組みと看護専門職の役割          ODA (政府開発援助)、JICA、NGO を通じた支援の実際と看護職の参画方法。</p> <p>第 7 回：海外における看護実践の実際：ケーススタディ          講師の海外活動経験に基づく現地での健康課題への介入、多職種連携、文化摩擦の克服事例の紹介と議論。</p> <p>(教員 1)</p> <p>第 8 回：課題発表と総括 (プレゼンテーション)          各自の関心領域に基づき、国際的な視点を取り入れた看護のあり方の発表と議論。</p>			

<b>3. 教科書、参考書</b>
<p>(教科書)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定なし (適宜資料を配布する)。</li> </ul> <p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本国際看護学会 編：『国際看護学入門』第2版, 医学書院, 2020</li> <li>庄野泰乃、内木美恵 (編)：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 災害看護・国際看護 (第5版), 医学書院, 2024</li> <li>WHO, JICA 等の公式サイト</li> </ul>
<b>4. 成績評価方法</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション：40% (情報の分析能力、論理性、質疑応答と討論)</li> <li>最終レポート：40% (講義内容の理解と考察の深さ)</li> <li>授業への参加度：20% (演習やディスカッションへの積極的な参画、リフレクションカード)</li> </ul>
<b>5. 受講要件</b>
なし
<b>6. 社会人学生に対する配慮</b>
オンライン (Webex 等) による受講を可能とし、講義日時は個別の事情に合わせ柔軟に調整する。
<b>7. その他</b>
<p>オンライン・オンデマンドを希望する場合は事前に担当教員に相談する。</p> <p>オンラインの場合、基本としてwebex とするが zoom もありうる。</p> <p>事前に担当教員と連絡をとり、課題などの指示を受けること。</p>